公開型リアクションペーパーを活用した双方向型授業の試み

特別支援教育講座・山下　光

（1）授業の概要

この授業は，特別支援教育教員養成課程の 3 回生対象の選択科目である。

言語の発達とその障害について，心理学の諸分野（発達心理学，認知心理学，神経心理学，行動分析学，応用言語学等）の理論を学ぶことを主な目的としている。また，前任者以来の伝統として，本人，および周囲の障害の理解と受容についてもある程度時間を割いて採り上げている。

登録受講生は 22 名で，その内訳は特別支援教育教員養成課程の 3 回生 21 名（聴覚言語障害コース 9 名，発達障害コース 12 名），大学院特別支援教育コーデネーター専修が 1 名であった。

授業のスケジュールは以下の 15 回であった。

1. 言語コミュニケーションとは
2. 野生児の事例に学ぶⅠ
3. 野生児の事例に学ぶⅡ
4. 言語の初期発達
5. 愛着の形成とコミュニケーション
6. 言語発達のプロセス
7. 自閉症児の言語コミュニケーション障害
8. 高機能自閉症の言語コミュニケーション障害
9. LD，ADHD のコミュニケーション障害
10. 音声障害，吃音
11. 失語症と高次脳機能障害
12. 認知症の言語コミュニケーション
13. 障害の理解と受容
14. 家族の障害理解
15. まとめ

テキストは特に指定せず（参考図書は 2 冊指定し，シラバスに記載），毎回プリント（授業で使用するものから抜粋したパワーポイント，図表，新聞・雑誌・書籍の切り抜き等）を配布した。前年度までは当該授業の開始時に配布していたが，今年度より出来る限り 1 回前の授業に配布し，自宅での予習が可能になるように配慮した。また，長文の資料がある場合には，内容の要約等の予習課題を与えることもあった。

（2）実際の授業の展開

授業では自作のパワーポイント・プレゼンテーションと液晶プロジェクターを使用した。言語の発達やその障害の状態を知るためには，画像や音声の資料が欠かせない。そこで，出来る限り毎時間,映像資料を使用した。特に 2 回目の授業では，全授業時間を使って，フランス映画「野生の少年」を鑑賞した。この映画は劇映画ではあるが，近代的な言語発達研究や言語治療の嚆矢となったアヴェロンの野生児を題材にしたもので，作品としても評価が高いものである。

それ以後も，「動物のコミュニケーション行動」，「乳児反射と随意運動の発達」，「赤ちゃんの脳の発達と言語発達」，「愛着の発達と虐待の影響」，「アスペルガー障害」，「自閉症と脳」，「高次脳機能障害」，「吃音者の会」，等のドキュメンタリー映像の一部を授業の導入や，まとめに使用した。

この授業では毎回最後に 10～15 分程度の時間を使って，リアクションペーパーの記入と提出を求めた。その内容は，こちらがテーマを与える場合と，その日の授業の内容から自分で選んで自由に書かせる場合があった。また，質問や要望はいつでも自由に書いてよいことにした。なお，リアクションペーパーについては，他の学生にも匿名で公開する可能性があることを伝えていた。

提出されたリアクションペーパーは，成績評価の材料にするとともに，代表的な意見や質問を選び，名前や不要な部分を切り取った状態で台紙に貼付し A3 用紙 1 枚程度のプリントを作成した。

このプリントを次回の授業の開始時に配布して内容を紹介するとともに，質問に答えたり教員からの意見を述べた。また，場合によっては内容について学生に直接意見を求めたり，教員が質問して挙手させる等の方法で，学生が自分で考えることを出来る限り促すようにした。

(3) 受講生による授業評価

学生の出席率は非常に高く，過半数の学生が前回出席していた。4 回以上の欠席をした学生はいなかった。授業評価は主にリアクションペーパー

を利用して行った。

14 回目の授業のリアクションペーパーで，「これまでの講義の内容に興味を持てたか」ということについて自由記述で答えさせたところ，ほぼすべての受講生から「興味を持てた」，「いろいろな意味でおもしろかった」，「初めて考えさせられることが多かった」等の高い評価が得られた。

リアクションペーパーの記入については，「頭の整理になってよい」，「質問がしやすい」，「授業で採り上げられると張合いになる」等の肯定的な意見と，「短い時間で意見を書くのは苦手」，「できれば書きたくない」，「面倒であまり好きではない」等の否定的な意見があった。「面倒だが，家でレポートを書いて来るよりは楽でいい」という意見もあった。また，「用紙が使いにくいので，もう少し書きやすい用紙にしてほしい」という意見もあった。

リアクションペーパーの印刷配布については，「同じ課程の友人の考えを読んで，しっかりした考えを持っていておどろいた」，「自分では思いもよらなかった意見にハッとさせられた」，「人の意見を聞くのが新鮮な体験だった」，「自分の文章が採り上げられて嬉しかった」等，肯定的な意見が多かった。

資料の事前配布に関しても，概ね肯定的な評価が得られた。ただし，「資料を忘れやすい」，「資料を忘れてきて，最後の感想が書きにくかった」等の回答もあった。

映像資料の使用に関しては概ね好評であった。特に，「野生の少年」は，ほとんどの学生に強い印象を残したようで，リアクションペーパーにも多くの感想や意見が書き込まれていた。

この映画には 19 世紀初頭の聾学校の様子等も登場しており，それに関する質問も多かったので，聾教育や知的障害教育の歴史的な部分についても，それに答えるかたちで追加的に資料を用意して解説した。

また，愛着の形成の回でも映像資料で取り上げられた虐待による愛着形成や言語発達の遅れに関心を持った学生が多く，それについての解説を追加した。

（4）反省点と総括

リアクションペーパーを印刷して配布することは，学生にとっては他の人の考えを知り，自分の理解や思索を深めるきっかけとなったようである。しかし，授業の始めにリアクションペーパーを読んだり，それについての補足説明をしている時間と，最後のリアクションペーパーの記入にかなりの時間が割かれてしまう点が，授業の進行の面では問題にもなった。特にリアクションペーパーの記入時間の確保が難しく，休み時間に食い込んでしまった回もあった。また，特に時間が十分確保できなかった場合には，その内容が成績評価の材料となるという点でも学生の心理的負担になった面は否めない。リアクションペーパーの回答の中にも，「もう少し書く時間を確保してほしい」，「感想を書く時間が足らなかった」という意見があった。

先にも述べたように資料の先行配布については，資料の持参を忘れやすいという問題も生じた。途中からは受講生に対して，次回に必ず持参するように注意を喚起するとともに，予備の資料を多めに持参することで対応した。しかし，資料の保管，整理などの煩雑さの問題もあり，今後は授業用 HP や Moodle の利用等も検討している。

資料に関しては今年度より，原典や引用元だけではなく，関連のある書籍（絵本や漫画を含む），映画（DVD）や URL を参考文献として記載し，授業中にもできるだけ紹介するようにした。その結果，実際にそれらを手に取ったり，閲覧した学生が少なくなかったようで，リアクションペーパーに「読みました」という報告や，感想が書かれていたものもあった。

授業の進行については，学生の反応によって内容を付け加えたり，映像資料を増やしたりしたため後半は時間不足となり，シラバスと実際の授業内容に一部ズレが生じてしまった。特に 12 回目に予定していた認知症の言語コミュニケーションの問題は割愛せざるを得なかった。また，吃音については，簡単にしか触れることができなかったが，この回に採り上げた資料に関しては，多くの学生が関心を持ったようで，もっと詳しく知りたいという意見が多かった。

その他，日程については附属小学校の公開授業に指定されたため，その日が小学生にも興味を持ってもらいやすい内容になるよう，学生の承諾を取ってテーマの入れ替えを行った。その際の小学生の感想文も概ね好意的なものであった。また，当日は小学生よりも付き添いの親から多くの質問があった。

今回のようなある程度時間の必要な授業形態をとる場合には，当初予定した内容が多すぎた。この授業形態を維持するためには，内容や資料の精選が不可欠であり，来年度の重要な検討事項となった。

また，今年度は聴覚障害学生の受講はなかったが，映像資料の字幕の整備等も行う必要がある。